

山岳遭難発生状況

(令和7年1月1日～令和7年4月27日)
地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況（暫定値）（令和6年数値は1月1日からの同期間数値）

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令和7年	59	12	2	28	29	71
令和6年	57	11	0	18	36	65
前年同期比	2	1	2	10	-7	6

2 山域別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	
北ア	槍穂高	4	6.8%	3	0	0	1	4
	後立山	16	27.1%	2	0	9	12	23
	その他	3	5.1%	0	0	4	0	4
計	23	39.0%	5	0	13	13	31	
中央アルプス	7	11.9%	2	1	3	2	8	
南アルプス	1	1.7%	0	0	1	0	1	
八ヶ岳連峰	9	15.3%	2	0	5	3	10	
その他の山岳	19	32.2%	3	1	6	11	21	
計	59		12	2	28	29	71	

3 態様別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	17	28.8%	7	0	12	0	19
転倒	15	25.4%	1	0	14	0	15
病気	3	5.1%	1	0	0	2	3
道迷い	12	20.3%	0	0	0	19	19
落石	1	1.7%	0	0	1	0	1
雪崩	1	1.7%	0	0	0	1	1
落雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	0	0.0%	0	0	0	0	0
不明・他	10	16.9%	3	2	1	7	13
計	59		12	2	28	29	71

4 男女別・年齢別比率

区分	男性					(人)比率	女性					(人)比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	0	0	0	3	3		0	0	0	0	0		3	
20代	0	0	0	5	5	18	0	0	0	1	1	4	6	22
30代	2	2	3	3	10	31.0%	0	0	1	2	3	30.8%	13	31.0%
40代	2	0	5	2	9	24	0	0	0	0	0	5	9	29
50代	3	0	3	9	15	41.4%	0	0	5	0	5	38.5%	20	40.8%
60代	3	0	6	3	12	16	0	0	4	0	4	4	16	20
70以上	2	0	1	1	4	27.6%	0	0	0	0	0	30.8%	4	28.2%
計	12	2	18	26	58		0	0	10	3	13		71	
比率	81.7%						18.3%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

5 ヘリ出動件数

警察ヘリ	29件	消防防災ヘリ	6件	民間ヘリ	
------	-----	--------	----	------	--

先週の発生（4/21～4/27）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
4月21日	北アルプス 爺ヶ岳	男	45	負傷	転倒	2人パーティで爺ヶ岳西沢をバックカントリーで滑走中、バランスを崩し、転倒、負傷
4月25日	北アルプス 前常念岳	女	64	負傷	滑落	単独で前常念岳に向け登山中、滑落、負傷
4月25日	北アルプス 蝶ヶ岳	男	58	負傷	滑落	単独で常念岳から蝶ヶ岳に向けて縦走中、滑落、負傷
4月26日	南佐久郡川上村 天狗山	女	53	負傷	転倒	2人パーティで天狗山山頂に向けて登山中、バランスを崩して転倒、負傷
4月26日	中央アルプス 極楽平	女	64	負傷	転倒	2人パーティで極楽平付近をバックカントリー滑走中、転倒、負傷
4月26日	北アルプス 涸沢	男	60	死亡	発病	単独で涸沢に向けて登山中、発病により、行動不能
4月26日	下伊那郡阿智村 大川入山	女	61	負傷	転倒	3人パーティで登山口に向けて下山中、バランスを崩して転倒、負傷
4月27日	北アルプス 蝶ヶ岳	男	62	負傷	滑落	2人パーティで横尾から蝶ヶ岳に向けて登山中、女性が滑落し、女性の救助に向かった男性も滑落し、それぞれ負傷
		女	61	負傷	滑落	
4月27日	北アルプス 白馬乗鞍岳	男	50	負傷	滑落	単独で天狗原付近をバックカントリー滑走中、バランスを崩し滑落、負傷
4月27日	北アルプス 岳沢	男	57	無事救出	道迷い	単独で西穂高岳から下山中、道に迷い行動不能

山岳安全対策課からのアドバイス

先週は、週末を中心に11件の遭難が発生しました。11件中、登山中の遭難が8件、バックカントリー中の遭難が3件発生しています。

登山中の遭難は、下山中の転倒、残雪での滑落がほとんどです。「残雪に足を取られ、体力と時間を予想以上に消耗し、心にあせりが生まれてしまい、ささいなミスにより遭難…」そんな悪循環に陥らないよう、事前に下調べを行い自分の体力に見合った行動計画を心掛けてください。各山小屋ではホームページやSNS等で登山道状況などの情報を発信しています。そのような現地情報を確認することもとても重要です。

バックカントリー滑走は、雪や斜面のコンディションをよく見極めて行いましょう。車の運転と同じで、技量レベルの限界近くで滑走することは非常に危険です。転倒や滑落は、往々にして骨折を伴う事故に発展します。余裕をもってターンや停止のできる速度を心掛けましょう。

今週末から大型連休後半が始まります。高山の春山は、冬山登山の延長にあります。そのような場所での登山には、多くのリスクが存在します。遭難を他人事と考えず、装備、計画を万全にして安全第一で楽しみましょう。